

総務文教常任委員会行政視察報告

平成29年5月16日から18日にかけて、山梨県都留市、長野県茅野市、日本航空学園山梨本校キャンパスの行政視察を行いました。

■都留市「大学連携型都留市版C R Cについて」

都留市は、国が進める「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で示された「日本版C R C構想」の推進自治体で、その取り組みが「大学連携型」とされ、本市においても國學院大學北海道短期大学部を有することから参考になると考えました。

都留市では、都留文科大学、健康科学大学看護学部、山梨県立産業技術短期大学校の3つの大学があり、市の人口の10%を超える学生を有する、文教都市を形成しています。この状況下で、東京圏からの高齢の移住者がより健康的で活発な老後を送るため、地元の大卒と連携し、高齢者のさまざまなニーズを満たし得るカリキュラムの提供や若者との交流・協働を通して、主体的な存在として地域で

活躍してもらうため、市内に立地する3大学との連携の場として、「大学コンソーシアムつる」を立ち上げ、相互連携、交流事業、地域貢献事業の確立、生涯学習プログラムの開発を進めています。また、単独型居住プロジェクトや複合型居住プロジェクトなど、移住先の住居の整備も併せて進めています。

本市においても、生涯活躍のまちづくりに向け、住居やサービス提供のための人材確保が課題となってきました。今後においても、さまざまな取り組みを検討していく必要性を感じました。

■茅野市「茅野市民館における市民参加型の公共施設づくりについて」

本市の公共施設は、市内に分散されており、利用する市民にとって不便であることから、市民参加型の複合公共施設を有する茅野市を選定しました。市民館建設および周辺整備基本構想の概要や基本計画、管理運営計画などの説明が

ありました。駅から建物までの通路に図書館、貸しスタジオなどが効果的に配置されており、また、300席のコンサートホールは扇形の形状で、優れた音響効果が特徴で、段差のない客席に工夫がされています。美術館は、可動壁により常設展示室と市民ギャラリーを分割する方式で、利用率は100%とのこと。マルチホールは、780席を有し、1階556席、2階224席となっており、1階席は舞台そでに格納することができるのでさまざまな形態で使うことができます。



▲茅野市民館コンサートホール

本市において建設する場合は、マルチホールは活かし、小ホールは多目的なものにし、複合性を高めた施設にすべきだと感じました。

■「日本航空学園山梨本校キャンパスの視察について」

日本航空学園は、昭和7年に日本最古で最大の航空学校として開校しています。山梨県甲斐市にあるキャンパスを本校とし、国内に8校舎を有しており、道内にも2校舎があり、本市からの進学者もいます。教育方針は「自由と規律」。「共感共創」・「長所伸展」・「国際教育」で生徒指導においては伝統と経験に基づく教育理念をもっています。

このような教育方針や特色のもと、大学進学や航空業界への高い就職率などの進路実績を残しており、これからの日本の航空業界を支える人材を育成している状況に大変感銘を受けました。

本市においても、専門性を有する人材の育成は重要であり、今後とも、これまで以上に将来を見据えた特色ある学校づくりについて、考えていかなければならないと感じました。